

5.81系統から100系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
81	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、片倉町駅前、西菅田団地	菅田町	緑		C	
81系統解説	以前は横浜駅東口から杉田平和町に行く路線がこの番号を名乗っていました。この路線は110系統と76、98(現在の156、158)系統を足したような路線で、本数も乗客も少なく廃止となりました。現在の81系統は元々は12系統のメイン系統として横浜駅西口から西菅田団地経由で緑車庫まで走っていた路線です。1996年3月の改変で、12系統と分離・短縮(さらには運行本数削減)され、現在の運行形態となりました。横浜駅西口を出て、岡野町、浅間下、三ツ沢総合グランド入口、片倉町入口を経て、市営地下鉄の片倉町駅に着きます。その先菅田町入口を經由し、菅田町に向かいます。終点菅田町の手前で一度西菅田団地に立ち寄る点は旧12系統と同じです。						
82	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、片倉町駅前	八反橋	浅間町緑		C	
	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、西神大寺	神大寺入口	浅間町		C	
82系統解説	昔は横浜駅西口から芹ヶ谷を結ぶ路線がこの系統を名乗っていました。1996年3月に上記81系統の改変と同時にこの系統番号も復活しました。現在の82系統は元々は36系統の一部でした。36系統のうち八反橋系統と神大寺入口系統が82系統になりました。						
83	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、片倉町入口、東泉寺入口	旭硝子前	浅間町	相鉄	C	共通定期券取り扱い区間は横浜駅西口～東泉寺前まで
	横浜駅西口	洪福寺、上星川、梅の木、寺下橋	旭硝子前	浅間町		MC EC	平日のみ一往復
83系統解説	以前は上記の2つの路線が一つの路線として循環線を形成していました。横浜駅西口から出る循環バスとしては最も距離の長い循環路線でした。路線の整理により循環線はなくなり、旭硝子前で折り返す運行形態となりました。そして梅の木回りについては平日の1往復のみとなりました。三ツ沢グランド回りは東泉寺前までは44系統と同一の経路を走り、東泉寺前で左折、一路旭硝子まで向かいます。						
84							
84系統解説	港南車庫と芹ヶ谷を結ぶ出入り用のイメージの強い路線でしたが、芹ヶ谷地区のバスの路線移譲に向けたダイヤ改正(2005年7月)の際に廃止となりました。						
85	磯子車庫前	磯子駅東口、東京ガス前	下水処理場前	磯子		C	ラッシュ時は多数運行
	磯子駅東口	東京ガス前	下水処理場前	磯子		C	朝夕中心に磯子駅東口発のみ運行
85系統解説	磯子駅のバスターミナルとは反対側の東口を発着するバス路線です。2006年9月までは浜小学校発の便もあり、汐見台ストア、屏風ヶ浦駅を経て、磯子車庫前を通り、磯子駅東口に出ていました。現在は磯子車庫発着となっています。磯子駅東口を出ると東京ガス前を經由し、磯子の海釣り桟橋脇の下水処理場前が終点です。浜小学校前～磯子車庫前間廃止前までは下水処理場前行きは浜小学校前発、磯子駅東口発の2パターンとなっていました(下水処理場発は浜小学校前行きと磯子車庫前行(方向幕上は磯子駅東口)でした)。この路線一部廃止に伴い路線は磯子車庫発着となり磯子車庫前発の下水処理場前行の運行が始まりましたが、磯子駅東口始発のバスも引き続き運行されています。						

86	横浜駅前	東神奈川駅入口、子安	生麦	鶴見		IC	7、29、48系統の出入便 リフト車運行
86系統 解説	48系統同様、旧横浜市電の第1次廃止路線の代替路線として誕生した路線です。もともとは横浜駅～生麦～鶴見駅を結ぶ路線だったそうです。また、途中新子安付近から宝町を経由して生麦に行く路線もありました。この路線はかつて市電時代は乗降客の多いドル箱路線だったそうですが現在では乗客もあまりなく、路線の位置付けも横浜駅発着の鶴見営業所担当路線の出入用というものになっています。						
87	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、陸上競技場裏、市民病院前	横浜駅西口	浅間町		C	一方循環 主に日中の運行(平日は夜間も運
	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、市民病院前、三ツ沢下町駅前、松本	横浜駅西口	浅間町		C	一方循環
87系統 解説	横浜駅西口と三ツ沢の市民病院を結ぶ循環線です。横浜駅西口から岡野町、浅間下を経て、三ツ沢総合グランド入口に出ます。三ツ沢グランドの周囲を回り、市民病院前に着きます。市民病院前の脇の坂を下り、横浜新道に出ます。その先はそのまま松本方向に直進し、泉町から横浜駅西口に出る便と再度三ツ沢グランド方向に戻り、横浜駅西口に戻る便とがあり、トータルで1時間あたり4本程度の運行(頻度B)となります。						
88	センター南駅	都築ふれあいの丘、仲町台駅、勝田	道中坂下	港北 ニュータウン		C	中型車運行多数
	仲町台駅	都築ふれあいの丘、センター南駅、大原、勝田	道中坂下	港北 ニュータウン		C	中型車運行多数 日中のみ運行
88系統 解説	かつては中山駅前から道中坂下を結ぶ路線でしたが、港北ニュータウン地区の路線の変更により、センター南駅及び仲町台駅発となりました。仲町台駅からセンター南駅の間は上下どちらのバス停からも道中坂下行きバスが走るようになっています。向原から勝田(かちだ)、道中坂下の区間は以前からの路線で、東急バスとも併走しています。終点道中坂下は東急バスの折り返し場を利用して折り返しを行っています。						
89	横浜駅前	桜木町駅前、日ノ出町1丁目、野毛山動物園前	一本松小学校前	保土ヶ谷		C	平日は日中のみ運行 中型車運行多数
	桜木町駅前	日ノ出町1丁目、野毛山動物園前	一本松小学校前	保土ヶ谷		RC	平日の朝、夕～夜のみ桜木町駅発着
89系統 解説	元々は市が尾駅周辺を走る循環バスがこの番号を名乗っていました。系統バリエーションがいろいろとあってなかなか興味深い路線だったのですが、こちらは廃止になってしまいました。あいた番号は1998年1月に32系統を分割した際に一本松小学校側の路線に振り当てられました。分割後のこちら側の系統はラッシュ時のみ山下ふ頭まで行きますが、その他の時間帯は桜木町駅での折り返しとなっています。桜木町駅を出ると日ノ出町1丁目、中央図書館、野毛山動物園を通り、一本松小学校に着きます。一本松小学校前には折り返し専用のスペースはなく、道路上でUターンをして折り返すようになっています。なお、起点については分割当初は県庁前(現在は日本大通り駅県庁前)発着となっていました。こちらは1999年9月10日より山下ふ頭発着に変更になりました。その後2007年1月中旬より山下ふ頭発着便が廃止となり、代わりに桜木町駅前から横浜駅前へ路線が延長となりました。						
90	中山駅北口	中山大橋、小山町、青葉台営業所前	青葉台駅	港北 ニュータウン	東急 神奈中	C	東急バスとあわせると頻度B 中型車運行多数
90系統 解説	中山駅と青葉台駅を結ぶ路線です。案外この2駅間は距離がなく、バスでも20分はかかりません。中山駅北口を出て、中山大橋を渡り、小山町方面に進みます。東急バスの青葉台営業所前で右折し、直進すると青葉台駅に着きます。かつては74系統同様、緑営業所の管轄路線でしたが、現在では港北ニュータウン営業所の担当となっています。東急バス、神奈中バスと共同運行をとっていますが、神奈中バス(中山駅～青葉台駅～町田ターミナル)の本数は一日数本となっています。						
91	根岸駅前	(急行)本牧市民公園前	三菱本牧工場前	本牧		MA	朝のみ運行(根岸駅発) 年未年始運休
	修繕工場前	(急行)本牧市民公園前	根岸駅前	本牧		EA	夕のみ運行(根岸駅行) 年未年始運休

91系統 解説	根岸駅と本牧の三菱工場を結ぶ急行路線で、朝夕のみの運行路線です。根岸駅を出ると立野高校入口まで通過し、それ以降は各停留所に止まり、三菱本牧工場前が終点です。2004年7月頭までは工場の敷地内に入り、修繕工場が終点になっていましたが、根岸駅発のみ短縮されました(根岸駅行は修繕工場前発があります)。三菱本牧工場前バス停以降は工場の敷地内に入っているの、普通の乗客は終点まで乗ることはできません(造船所も同様)。ちなみに、休日運休ではなく、休日も2往復(朝方根岸駅発、夕方根岸駅行)程度運行があります。						
92	笹山団地	(急行)上菅田町、梅の木、上星川、洪福寺	横浜駅西口	緑		B	笹山団地発のみ
	横浜駅西口	(急行)洪福寺、上星川、梅の木、上菅田町	笹山団地中央	緑		B	横浜駅西口発のみ
92系統 解説	62系統同様、横浜駅西口から出る急行バスです。梅の木まで、先に書いた62系統と同じバス停に停車します。梅の木で右折し、一路笹山団地へ。笹山団地周辺は一方通行路となっています。原則としては緑営業所出庫後、回送で笹山団地まで来てそこから営業運転で笹山団地中央、笹山団地入口と行き、横浜駅西口へ向かいます。一方、横浜駅西口からは笹山団地入口、笹山団地、笹山団地中央と来てここが終点となり、緑営業所に回送となります。なお、笹山団地中央の近くには折返場もあるため、緑営業所に戻らないで折り返す運用も多数あります。						
93	市電保存館前	磯子駅前、杉田駅前、栗木町、氷取沢、磯子台団地(循環)	磯子駅前	滝頭		MC	平日朝1本のみ運行 小型車運行
	磯子駅前	杉田駅前、栗木町、氷取沢、磯子台団地(循環)	市電保存館前	滝頭		IC	小型車運行 休日運休
	磯子駅前	杉田駅前、栗木町、氷取沢、磯子台団地(循環)	磯子駅前	滝頭		C	小型車運行
93系統 解説	10系統と同様、最後まで車掌の乗務していた路線です。現在では小型車による運行となっています。小型車になり1台あたりの収容人数が減ったこともあり、朝のラッシュ時には最短4分の運転間隔もあります。磯子駅前を出て、中原で裏道に入り、杉田駅前に。京急の踏切を渡り、栗木町へ。栗木町から先は金沢文庫に至る道を進みます。以前は終点が氷取沢でしたが、1998年6月になって氷取沢より磯子台団地と、滝頭営業所への出入り、通学対策用に一部路線が変更になりました。なお、市電保存館発市電保存館行きはありません。						
94	富岡バスターミナル	慶珊寺前、長浜、金沢文庫	金沢区総合庁舎前	磯子	京浜急行	DC	特殊運賃制 休日・年末年始運休
94系統 解説	金沢区の富岡バスターミナルと金沢区総合庁舎を結ぶ路線です。区役所への輸送を考慮した路線と言うことで、平日の日中と土曜日の午前中のみ、運転間隔は1時間に1本の路線です。京急バスとの乗り入れで、両社のバスが交互に運行されているために市営バスの運転間隔は2時間に1本、平日4本、土曜日2本となっています。4系統と61系統を足したような路線で、富岡バスターミナルからサブセンター前までは61系統と同じ経路を走ります。サブセンター前で左折し、東富岡に出ます。そこからは国道16号を走り、富岡、長浜、金沢文庫を経て金沢区総合庁舎前に着きます。かつてはここから金沢八景、追浜方面で堀ノ内まで行く京急バスが走っていたのですが、こちらはなくなってしまいました。						
95	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、(第三京浜)、新開橋、梅田橋、貝の坂、川和町	市が尾駅	港北 ニュータウン		C	
95系統 解説	第三京浜を走るバスです。しかし、通常料金で乗車することができます。当初は川和町止まりだったのですが、その後市が尾駅まで延長されました。横浜駅西口の第2バスターミナル、岡野町、浅間下(横浜駅行きは浅間下から楠町経由です)に出ます。山を登り、三ツ沢総合グランド入口に着きます。その先第三京浜の保土ヶ谷インターから高速道路に入り、港北インターまで走ります。港北インターで高速を降り、新開橋から梅田橋、佐江戸、貝の坂、川和町と進み、市が尾駅に向かいます。個人的にはお気に入りの路線の一つです。						
96	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、六角橋北町、菅田町入口	八反橋	浅間町 緑		C	
96系統 解説	横浜駅西口から八反橋を結ぶ路線の一つです。44系統と82系統に比べると少々遠回りになるためか、本数は1時間に1本程度です。もともとは六角橋まで走っていた市電の代換路線の一つです。横浜駅西口を出ると東神奈川駅西口、六角橋、六角橋北町とすすみ、岸根公園の脇を通り、下耕地まで行きます。六角橋北町から下耕地の間は38系統と併走するのですが、この区間は上り下りどちらのバス停で待っていても横浜駅西口行きがくる区間になっています。						

97	根岸駅前	(急行)本牧市民公園前、中小企業団地	北通り	本牧		MA EB	朝夕のみ運行 休日運休
	根岸駅前	不動下、本牧市民公園前、中小企業団地	根岸駅前	本牧		DC	一方循環 平日、土曜は日中のみ、休日は終日運行
97系統 解説	もともとは上の急行便のみの運行だったのですが、1997年1月の改変でももめ町地区を54系統から分離した際に日中運行の循環線を設置し、本数は少ないもののトータルで見ると一日中通して運行するバス路線となりました。根岸駅を出て、立野高校入口、本牧市民公園とすすみ、陸橋を渡るとかもめ町地区です。陸橋下、かもめ町、中小企業団地、北通りと進み、本牧市民公園に向かいます。そして根岸駅に戻ります。朝夕のみの運行の急行便は循環の終了する北通りが終点になります(なお、方向幕は中小企業団地となります)。						
98							
98系統 解説	76系統と対をなす循環線でした。76系統同様、横浜市電最後の路線である8系統を引き継いだ路線でした。2006年3月の改変で分割され、156系統、158系統になりました(詳細は76系統の説明を参照)。						
99	磯子車庫前	根岸駅前、和田山口、元町、中華街入口、日本大通り駅県庁前	桜木町駅前	磯子		C	リフト車運行
99系統 解説	桜木町駅と磯子を結ぶ路線の一つです。その中では一番運行時間の長い路線になっています。桜木町駅を出て、日本大通り駅県庁前、中華街入口、山下町(元町・中華街駅)まで来て、右折し、中区分庁舎前を經由し元町方面へ向かいます。元町以降は小港、間門、根岸駅、八幡橋、磯子駅を経て磯子車庫に向かいます。2004年2月のみなとみらい線開業前までは本町4丁目で右折し、尾上町、市庁前、吉浜橋を經由していましたが変更になりました。						
100	洋光台駅前	萩台、上中里団地(団地内循環)、杉田坪呑中央	新杉田駅前	港南		C	上中里団地内の循環方向は一定
100系統 解説	1999年10月1日より運行を開始した路線です。107系統の洋光台駅萩台経由の上中里団地循環線のダイヤの一部を変更し、循環終了後向坂にて右折して環状3号線のトンネルをくぐり、杉田台団地の脇を通り国道16号線に出ます。国道16号線を少し走り、磯子スポーツセンターの脇を通って新杉田駅に行く路線です。 かつては70系統と対をなす汐見台循環路線でしたが廃止となりました。磯子駅から60系統と同じ区間を浜小学校前まで行き、以降は70系統の反対側を循環し、浜小学校前に戻り磯子駅前へ行く路線でした。70系統同様便によっては造船所まで走っていました。						